

平成7年度 16ミリ映画購入予定作品一覧



新規購入の16ミリ映画教材が決まりました。今年度の特徴は、平和教育2本、人権・同和教育4本、家庭・地域・社会教育関係8本です。くわしい内容の紹介は、次回の教育センターだよりに掲載されます。

貸し出しは3学期からになります。どうぞ、お楽しみに！

分野	題名	時間
アニメ	ミッキーマウスとプルート	10
アニメ	ミッキーマウスとゆかいな仲間たち	10
アニメ	ミッキーマウスのたのしい冬	10
アニメ	のどか森のシンフォニー	10
アニメ	パパお月さまとって	12
アニメ	はらべこあおむし・だんまりこおろぎ	21
アニメ	おおきなかぶ	21
アニメ	鬼の子とゆきうさぎ	22
アニメ	だるまちゃんとてんぐちゃん	23
アニメ	サラダ+勇士トマトマン 出動!魔法のミニマト	23
アニメ	森のはずれのシャックリのぼうけん	24
アニメ	ババロアさんこんばんは	24
アニメ	忍たま乱太郎 忍術学園の仲間たちの巻	25
アニメ	鬼がら	27
アニメ	ちいさなジャンボ	28

分野	題名	時間
アニメ	かさじぞう	12
アニメ	うらしまたろう	12
アニメ	いっすんぼうし	12
アニメ	かちかちやま	12
アニメ	鴨とりごんべい	12
アニメ	すもうおばけ	12
安全教育	リンちゃんの交通安全(アニメ)	11
防災教育	ぼくのじしんえにつき(アニメ)	23
平和教育	おばけ煙突のうた(アニメ)	44
平和教育	ポッポちゃんとクリちゃん(アニメ)	59
人権同和	愛は海より深く	55
人権同字	友情のキックオフ(アニメ)	27
人権同和	さわやかに風吹く町	55
人権同和	部落の歴史3 [現代]	45
社会教育	夏、そよ風	44
家庭教育	何がやりたいの?	23
家庭教育	マザーズロボット	30
家庭生活	小さな家族	55
家庭生活	がんばれまあちゃん	48
高齢者	おじいちゃん出発進行	29
地域社会	輝きたい ヤングエイジのボランティア	20
地域社会	ありがとう	55

貸し出し機器の追加情報

当センターでは学校などに貸し出す機材の充実に努めております。今年度は写真の3機種を追加しました。どうぞご利用ください。

A. フォトビジョン
ネガ、写真、実物をテレビに映し出すコンパクトな機器です。

B. 高輝度スライドプロジェクター
体育館など広い場所で利用可能な非常に明るいスライド機器です。

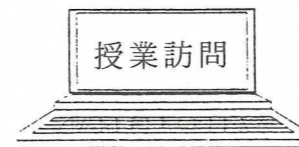
C. 一体型液晶ビデオ映写機
ビデオデッキ内蔵の機器で大型スクリーンに映し出せます。

発行者 金沢市教育センター
高 沢 忠 雄
〒920 金沢市武蔵町14番31号
TEL (21) 7949・1642
FAX (21) 6800



写真：三馬小学校社会科授業参観より (H7.9.27)

平成7年11月29日発行



パソコンを授業で使ってみませんか？

最近「インターネット」や「ウインドウズ95」などというコンピュータに関する言葉をよく聞きます。これは、コンピュータが日常生活の中に入り込んできている現れだと思います。さて、センターではコンピュータを授業に使いやすいように、貸出用ノートパソコンを70台用意しています。このパソコンには各教科で使えるセンターの委託制作ソフト(40本)や、パソコン通信などで集めたフリーソフト(約150本)などが入っています。貸し出し率は、ほぼ100%で、ご要望に添えない場合もでてきているほどです。貸し出し先は、90%が小学校で、主に、理科、算数、社会、クラブ活動にと使われているようです。

今回は三馬小学校の授業参観日に、本多先生のクラスにおじゃましてパソコンを使った授業を見学させていただきました。教科は社会科で、明治の人物について調べたことをもとに各グループで発表する授業でした。使っていたソフトは「明治を築いた人々」で、明治の代表的な6人の人物について年表をもとにマウスをクリックするだけで詳しく調べていけるというものです。

子どもたちは、事前に自分たちの好きな人物につ

いて資料集やパソコンなどを使って調べてあり、当日は自分たちの調べたことをOHPやパソコンを使っての発表でした。中でも西郷隆盛を選んだグループが一番多く、保護者の方を前にして、パソコンの画面を教室のテレビに映し出し、説明に合わせて画面をどんどん変えていました。また、テレビの画面では字が小さくて見えにくいところは、各グループのパソコンで見てもらう箇所を指示しながら説明していました。

本多先生は「調べ学習は従来、図書室へ行き、目的の人物の見当をつけて本をさがし、中を調べ、必要な内容をノートに書き取るというパターンが多いのですが、こうした学習では結構時間がかかります。しかし、今回パソコンを利用することで、画面を見ながら多くの情報から必要な事項を取り出し、効果的に学習を進めることができました。」とおっしゃっていました。

子供たちもずいぶん楽しそうにマウスでパソコンを操作しながら学習をしていました。

みなさんの学校でもぜひセンターのパソコンを借りて授業に使ってみませんか？案外子供たちは違和感なく操作するのではないのでしょうか。

「いじめ」の相談から



昨年、愛知県西尾市での「いじめ」による中学生の自殺事件がありました。それ以来、「いじめ」の問題が10年ぶりに再び大きな社会問題となり、これらの対応をめぐる、学校はもとより相談機関が一斉に、心新たに「いじめ」一掃を目指して取り組んでいます。本市でも、対策委員会や電話110番を設置し、努力しているところです。

今までに「いじめ」に関するいろいろな悩みなどが情報として入りましたが、ここで「いじめ」の内容の傾向として校種・男女別に分類してみます。小学校男子では、小突く、叩く、蹴る等の暴力的な行為での「いじめ」が多く、一方女子では「きたない」「バイキン」などのことばによる「いじめ」と「シカト（無視）」といった類のものが大半を占めています。中学校男子では、からかい、悪口のことばによるものと、たかりや暴力的なものもいくつかあります。女子では級友や部活動での「仲間はずれ」が圧倒的に多いようです。

【事例1 小4女子】

アトピーのため顔面に発疹のようなものが出ており、それを見て級友たちがいやがらせをいう。本人が勇気を出して「そんなこと言わないで。」と抗議してもしつこく繰り返し、「もう学校へ行くたくない。」と困りきった気持ち

を訴えていた。

【事例2 中3男子】

中2の時に上級生Aに約10万円恐喝された。3年になってもAにつきまとわれ、親の財布より現金5万円を抜き取りAに渡す。持って行かないと殴る、蹴るの暴行を受ける。自分以外に同じように恐喝されている友人が数名いる。いつ呼び出されるか戦々恐々として十分な学校生活が送れない、どうしたらよいか。

事例1では、担任とよく相談する中で解決への糸口を見出すことができました。

事例2では、「いじめ」というより「犯罪行為」であり、学校のみならず関係機関との連携が必要なケースです。

「いじめは差別の芽である。」とか「現代社会のひずみを反映している。」、また「いじめは第三者には極めて見つけにくいものである。」などといわれています。いずれにしても、学校現場も行政も児童生徒や保護者の声に謙虚に耳を傾けて、子どもたちが心豊かに学校・社会生活が送れるように努力したいものです。(西)

尚、事例は相談の事例をもとに創作したものです。



さりげなく・・・

子供たちが「そだち」に来て、半年もすると、その子なりに少しずつまわりの空気に慣れ、その中での自分の位置を探そうとし始めるようです。

——「先生、私、学校では自分のことをわかってくれる人がいなかった。それで、ここ（教育センター「そだち」）へ行けば、自分と同じような悩みを持っている人がたくさんいて、私のこの気持ちをわかってくれる友達が絶対いるって信じて来たのに、やっぱりいっしょだった。みんなくだらないことでも楽しそうに笑っているから、こんなことで悩んでいるのは私だけだと思う。でも、こんなことに悩んでいる自分がいやだから、もう悩みたくない。先生、私どうしたら悩まないですむの？」——私の目をまっすぐ見つめて答えを求めたAさんの姿に、さまざまな言葉がこみあげてきました。「楽しそうに見えても、心の中はあなたと同じかもしれないよ。」「今そういうふうに悩むことが、きっといつか役に立つと思うよ。」……けれども、私にできたことは彼女の目を見つめ、うなずきながら聞くことだけでした。

これといった結論も出せずにいたその時、先程から彼女の言葉を静かに聞いていたBさんがふと口を開きました——「考えすぎや。私もそうだけどだれだって自分のことって嫌だと思う。でも、そんな自分でも、知らないうちにだれかの役に立ってるってこともあるし……私だってAさんのおかげでいろんなことを勉強できるようになったんだよ。」——このBさんの言葉を聞いて、Aさんは少し照れくさそうに「そうだったの。知らなかった。ありがとう。」と微笑みました。それはちょうど、しおれていた花が水を得たときのような晴れやかな笑顔でした。そして同時に、Bさんの、肩ひじ張らない言葉は、私自身の心にもとても自然に響きました。

私が言いあぐねていたのは、Aさんのまっすぐ

な気持ちに対し、何を言っても口先だけの言葉と受け取られてしまうように感じ、心が足踏みしたからなのだと思います。そういえば、これまでも、格好よく見せようとか、理論的に話そうとか、説得しようかと思うと、逆になかなかうまく話せず、失敗してしまったことがあったような気がします。

「先生」と呼ばれる身の、いわゆる職業柄なのか、それとも職業病(?)なのか、「この子のために、私が何とかしてあげたい」という力みが、時には、強引な押しつけや単なる自己満足に陥ることも多いのではないかと、このごろよく考えます。しかし、だからと言って何もせず、手をこまねいているわけにもいきません。

以前、ある講演で『不憎不愛』という言葉が教えていただきました。その言葉のように、互いに拒否もせず執着もしない、言い換えれば、お互いが自由であり、かつ信頼できる関係を、目指したいなあと思います。そして無理をせずお互いがリラックスして「さりげなく」付き合えるとき、心の手がつながったというあたたかい実感が得られることを信じて……。(岡崎)



教育相談の基礎

自閉症児の行動

自閉症といわれる子どもたちは、対人関係、言語面だけでなく、行動面でも特徴がみられます。行動面での特徴としては、落ち着きがなくよく動き回ること(多動)、同じ行動を長時間にわたって繰り返していること(常同行動)、あるいは道順や順番の変更に対して強い抵抗があること(同一性保持)があげられます。

ここでは自閉症といわれる子どもたちが示す特徴的な行動を理解するうえでの一つの視点を示していきたいと思えます。

基本的には、子どもたちは身の回りにある「もの」、あるいはそこで起こっている「こと」に対してのふるまい方や取り扱い方を十分に理解できないと考えられます。そのため子どもたちは分かりにくい「もの」や「こと」に取り囲まれ、まとまりのある行動がとりにくい状況におかれて

いるといえます。つまり、子どもたちは自分の身のまわりにある「もの」、「こと」の物理的特性は把握できても、それらのもっている意味を理解しにくいために、前述のような行動面での特徴を示していると考えられます。

こうした考え方をもとにすると、多動という行動的特徴は従来いわれてきた注意能力に関する障害ではなく、「もの」の意味がつかめず、注意を向け続けることができない状態と考えられます。また、常同行動は、「もの」がもっている物理的、感覚的な意味を子どもたちなりにとらえているといえます。同一性保持という行動的特徴についていえば、子どもたちの一定の適応的行動であり、子どもたちなりに周囲とかかわる意味がそこにあると考えられます。

このような視点が子どもたちの行動を理解する上で、少しでも参考になればと思います。(田野)